

おかる

岩井糸三郎

へ父よ母よと

なくこへ聞バ

つまにあふ

むのうつ

せし言葉

ア、なん

じやいな

おかじやんせ

へ世にも因果な

者ならわしが

身じやかわいい男に

いくせの思ひア、なんじやいな

おかじやんせ忍びねになくさよふける

大ほし由良之助

尾上菊五郎

筑紫大宰府へ参詣に付

御名残狂言に

相勤申候

アコレ／＼其元は足軽ではなうて

大きな口軽じやのなんとたいこ

持なされぬか尤みたくしも

■の頭を斧でわつたほど

無念な共存して四五十人

一味を拵へて見たがあちな事の

よう思ふて見れば仕様じたら

此方の首がころり仕負たら跡で

せつふくどちらでも死ねばならぬといふは

人參吞で首くる様な物殊に其元は五両に

三人ふちの足輕お腹は立られなはつちぼうづの

ほうしや米など取てゐて命を捨て敵討しやうとは

■のり貰ふた礼に太神米打やうな物我に知得与五百

石貴様とくらべると敵の首を計升ではかる程取ても

取り合ぬく所でやめたじやてナ聞へたか

寺岡平右衛門

三枘源之助

是は由良之助様のお詞とも

覚ませぬわつか三人ふち取せつ者

めでも千五百国の御自分様でも

つなきました命はひとつ

御恩に高下ハムリ升ぬ

押におされぬお家の筋目

殿の御名代もなされまする

お歴々様方の其中へ見る

かげもない私めがさし違へ

てとおねがひ申ハ憚共早よ

ぐわいともほんのさるが

人まねおぞうりをつかんで

なりともお荷物をかついでなり

ともさんじませうお共にめし

連られてナ申シ／＼御家老さま

是はしたり

寝てムルとふな